地図でわかる 世界の戦争・紛争

3 アフリカ
～ソマリア内戦、コンゴ動乱 ほか

もくじ

世界の戦争・紛争で知っておきたいこと【アフリカ編】 4
成長と貧困が同居する現在のアフリカ／今もつづく、紛争と貧困の悪循環

◆ ソマリア内戦 6
◆ コンゴ動乱／コンゴ内戦 10
◆ ティグレ紛争 14
◆ マリ北部紛争 16
◆ ダルフール紛争 18
◆ エチオピア・エリトリア国境紛争 20
◆ ギニアビサウ内戦 22
◆ チャド内戦 24
◆ ルワンダ内戦 26
◆ エチオピア内戦 28
◆ ビアフラ戦争 30
◆ アンゴラ内戦 32
◆ コートジボワール内戦 33
◆ アルジェリア独立戦争 34

ナイル川の水資源をめぐる争い 35
国連平和維持活動って何？ 36
日本による国際平和のための活動 37
南アフリカの人種問題 38

さくいん 39

- 本書は、原稿執筆時点で入手した情報にもとづいて編集されたもので、現状と一致しない場合があります。
- 本文中に出てくる国名や人物の肩書などは当時のものです。
- 本書では、平凡社地図出版によって2016年時点の情報を反映し制作された地図データを使用しています。

世界の戦争・紛争で知っておきたいこと

アフリカ編

成長と貧困が同居する現在のアフリカ

アフリカ大陸は、南北に約8,000km、東西に約7,400kmの距離があり、地球の陸地の約22%を占める広大な大陸です。55の国と地域があり、約14億人が暮らしています。

豊かな自然環境で知られるアフリカには、ダイヤモンドや金といった貴金属、クロムやマンガン、ボーキサイトなど、工業生産に欠かすことができない豊富な地下資源が各地に点在しています。このため、近年、アフリカでは経済成長をしめす国が増えており、国際的な注目を集めています。

一方で、アフリカは長年にわたって、世界でもとくに貧しい地域とされています。サハラ砂漠より南の地域(サブサハラ・アフリカ地域)の貧困はとくに深刻で、多くの国で人口の25%以上の人びとが栄養不足の状態にあるとされています。

アフリカにおける貧困の要因はさまざまですが、なかでも大きいのはたびかさなる紛争です。その原因のひとつは、ヨーロッパの国ぐにによるかつての植民地支配だとされています。19世紀の後半、アフリカではイギリスやフランスなどによる植民地化が進み、20世紀のはじめにはエチオピアとリベリア以外のすべての地域が分割され、支配されるようになりました。

(国連WFP『ハンガーマップ2021』より作成)

今もつづく、紛争と貧困の悪循環

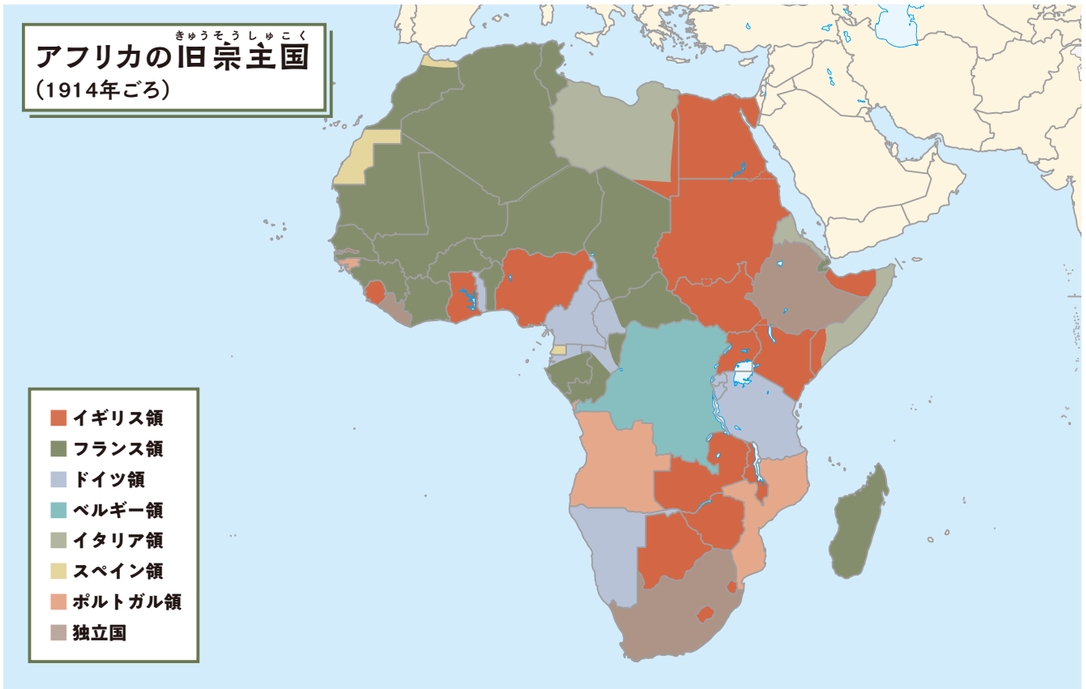
第2次世界大戦後のアフリカでは、各地でつぎつぎと国が独立を果たします。しかし、こうした独立の多くは民族としての独立ではなく、植民地時代に機械的に引かれた境界線をもとにした「植民地の独立」でした。そのため、地域によって民族が分断されることもあり、これにより民族間の争いや宗教的な対立が起こるようになります。

また、かつての宗主国*であったヨーロッパの先進国に比べて、後から独立したアフリカ諸国は工業化が進まず、経済的な発展が遅れて豊かな社会を築けずにいました。さらに豊富な地下資源をめぐる争いや、権力をにぎった政治家や軍による独裁など、さまざまな要因から、アフリカでは紛争が数多く起こり、それは今もつづいています。

こうした紛争では、戦闘による犠牲者だけでなく、虐殺などをおそれて数多くの人が難民となり住みなれた地域を去ることで、農業や工業のにない手がうしなわれ、国の経済状況はさらに悪化します。その結果、貧困がさらに進み、場合によっては飢餓が引き起こされ、それらが原因となってまた新たな紛争や難民の流出が起こるという、悪循環がくり返されているのです。

国際連合(国連)を中心とした国際社会は、こうしたアフリカの紛争と貧困をなくすべく、さまざまな取り組みを行っています。

*宗主国:植民地などを、政治的・経済的に支配している国



ソマリア内戦

1960年に独立したソマリアでは、長年にわたって独裁政権がつづいていました。1991年、反政府勢力である統一ソマリア会議(USC)によって、独裁政権が倒されます。しかし、USCでは暫定大統領派とアイディード将軍派が対立し、それ以来約20年間にわたり、全土を統一する政府が存在せず、複数の武装勢力が対立する無政府状態がつづきました。2012年に国連の後押しなどで統一政府が誕生しましたが、その後も現在まで武装勢力同士の対立やテロがつづいています。

年代

- 1991年～現在

当事国

ソマリア　ソマリランド
暫定大統領派
アイディード将軍派
イスラム法廷連合(UIC)
アル・シャバーブ
イラク・レバントのイスラム国(ISIL)ソマリア
アメリカ、エチオピア　など

独裁政権による社会主義国家の建設

アフリカ北東部の「アフリカの角」とよばれる地域にあるソマリアは、かつては北部をイギリス、南部をイタリアが支配する植民地でした。その後、第2次世界大戦後にアフリカの国ぐにがつぎつぎと植民地から独立していくなか、ソマリアも1960年に南北それぞれが独立・合併して、ソマリア共和国となります。しかし、1969年の大統領暗殺をきっかけに、軍と警察によるクーデターが発生。これにより、軍による独裁政権が発足しました。

軍人だったシアド＝バーレをリーダーとした独裁政権は、当時のソビエト連邦(ソ連、現ロシア)の援助を受けて、社会主義国家づくりをめざしていきます。

統一ソマリア会議による新政権の発足

1970年代になると、ソ連はソマリアよりも、より戦略的に重要度が高い隣国のエチオピアへの支援を優先するようになります。こうしたなか、ソマリア中央地域のハウィヤ人を中心に設立された統一ソマリア会議(USC)や、北部を基盤とするソマリア国民運動、南部地域で反政府活動を行っていたソマリア愛国運動などが、シアド＝バーレをリーダーとする独裁政権と対立し、ともに協力しながらゲリラ活動を行うようになります。

その結果、USCの軍隊が首都であるモガディシオを制圧し、1991年にアリ＝マハディ＝ムハンマドを暫定大統領とする新しい政権が発足しました。

ソマリア内戦の流れ

1960年	ソマリア共和国が成立
1969年	クーデターによりシアド＝バーレが政権をにぎる
1991年	シアド＝バーレ大統領追放、アリ＝マハディ＝ムハンマドが暫定大統領に
	北部が「ソマリランド」として独立宣言
1992年	国連ソマリア活動(UNOSOM)などが活動開始
1995年	武装勢力の抵抗により、UNOSOMが完全撤退
1998年	北東部が「プントランド」として自治領宣言
2005年	暫定連邦政府(TFG)が成立
2006年	イスラム法廷連合(UIC)がモガディシオ周辺地域を制圧
	TFGの要請を受けたエチオピアがソマリアに派兵
2007年	エチオピア軍に倒されたUICが、エリトリアで「ソマリア再解放連盟」(ARS)を結成
2008年	TFGとARSの穏健派が停戦に合意
2009年	反TFG勢力アル・シャバーブがバイドアを制圧
2012年	新暫定憲法が採択され、統一政府が樹立